

研究課題 (テーマ)		有機分子の構造理解を促す学習手法の開発と試行	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	医薬品工学科	教授	磯貝泰弘
実施責任者	医薬品工学科	教授	小山靖人
研究結果の概要			
<p>本プログラムでは以下の2点について取り組んだ。</p> <p>① 分子模型を使った有機化学系講義の開発と試行 分子模型を購入し、有機化学担当教員間で共有して実践型講義のコンテンツを立ち上げた。本年度より講義内容に取り入れることを予定している。</p> <p>② 学生実験のための分光機器の整備 上記の新しく開発する実践型講義の内容を踏まえて、学生実験の内容を再検討した。学生実験で用いる分光機器を整備し、測定に係る消耗品を購入した。</p> <p>年度の変わり目における医薬品工学科の有機化学関連講義の担当教員の人事異動を踏まえ、現在実施している講義の分担内容を見直し、本学科の特色である医薬品開発に特化した教育・研究の魅力がより明確に反映される講義・実習内容の検討を行った。</p> <p>具体的には、新任教員が担当する2年次科目「医薬有機化学」と1年次科目「有機化学2」との連動性を高めるため、両科目で共通の教科書を採用するとともに、講義に必要な分子模型の約半数を整備した。また、「医薬品プロセス化学」を濱田先生の担当講義へと変更し、当該講義に使用する分子模型も導入した。さらに2年次科目「医薬品工学実験1」における中島先生担当分について、これまでの課題を整理し、実習において必要とされる教育内容の明確化を図った。なお、具体的な実習内容については、新任教員の着任後に改めて検討する予定である。</p> <p>本プログラムにより、申請時に掲げた目標に沿って講義・実習案の作成を完了するとともに、必要備品の一部について導入を進めることができた。一方で、依然として整備が不十分な物品・消耗品が残されているため、今後も本プログラムを継続的に推進していく必要がある。</p>			
今後の展開			
<p>本プログラムにおいて決定した講義内容でR8年度の有機系講義を実施する。現在もなお、講義資料の作成と担当者間の調整を進めている。なお、本プログラムの効果は実施後（今年度以降）に明らかになると考えている。その後、講義・実習内容・経費の妥当性について再度検討し、円滑で、教育効果が高く、本学科の魅力や特色を表すような講義・実習を開発すべく、議論を続ける。</p>			